

# 国産材建具のキャンペーン

## 新規受注獲得へ

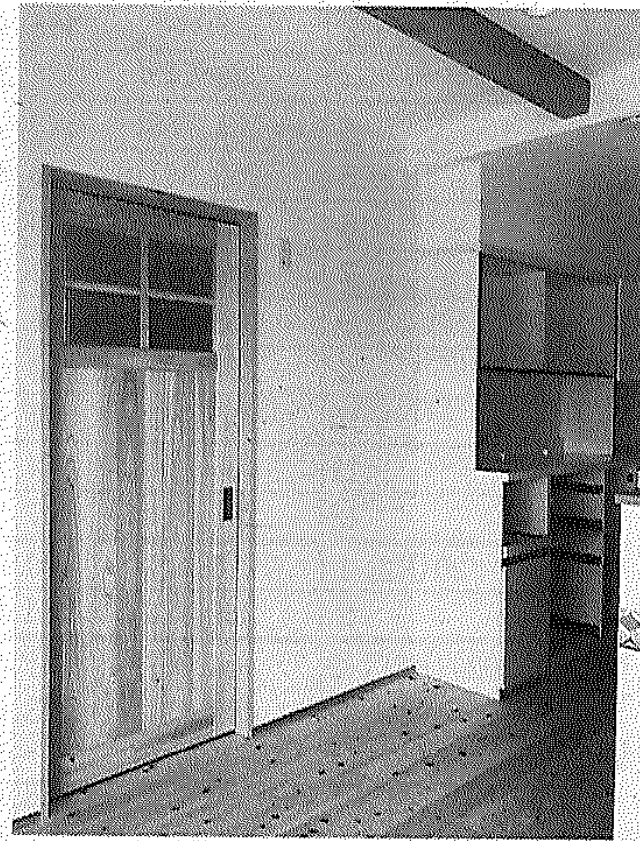
### 岡島ホールディングス

岡島ホールディングス（岐阜県不破郡、岡島寿樹社長）は、2019年のホールディングス制移行を記念した国産材建具のキャンペーンを実施している。製作は、グループ会社の共栄木工（同、井口幸則社長）が手掛ける。全国の社寺用建具や自社製建具の生産で培った豊富な実績をアピールし、工務店やハウスメーカー向けで新規受注の拡大を狙う。受付期間は5月31日まで。

岡島グループは1932年（昭和7年）に建具製作の岡島建具店として創業し、2019年に岡島ホールディングスを設立した。現在は、岡島ハウス産業はじめグループ5社が滋賀県、岐阜県、愛知県ほかを営業エリアに、住宅建材、ビル建材、リフォーム・新材、太陽光発電・蓄電池、木製建具の各事業を展開している。

共栄木工は、創業から90年近くにわたって培った木製建具製作のノウハウを残すため、12年に本体から木製建具事業を分社化して設立された。従業員数は14人で、ここ数年は社寺用建具のノウハウを生かして住宅向けの木製建具に力を入れている。玄関ドア（桧や松、ナラほか）、積層ムク框戸（ラジアタ松）、ムク板貼戸（キリ）、ムク框戸（杉）、フラッシュ戸（タモ）ほかをカタログ商品化し、建築関連の展示会にも複数回出展している。

今回は、反りの少ない桧と杉のソリッド材を使用した建具をキャンペーン価格で提供している。共栄木工の井口社長は「国産材を前面に打ち出した注文住宅を手掛ける工務店ほかにも、自社生産による品質と安定供給、和洋双方で求められるデザインやサイズへの対応力をアピールし、新規受注の拡大につなげた」と話している。



グループの共栄木工が製作する木製建具